



平成 19 年 6 月 18 日

各 位

会 社 名 株式会社 東 研
代表者名 代表取締役社長 小 平 学
(JASDAQ コード番号 6738)
問合せ先 取締役総務部長 大類 隆義
(TEL. 03-5325-4321)

平成 19 年 4 月期 (連結・単独) 業績予想の修正に関するお知らせ

平成 18 年 6 月 20 日の決算短信に公表した平成 19 年 4 月期 (平成 18 年 5 月 1 日～平成 19 年 4 月 30 日) の通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 19 年 4 月期 連結業績予想数値の修正 (平成 18 年 5 月 1 日～平成 19 年 4 月 30 日)
(単位: 百万円、%)

| | 売 上 高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|------------------------------|-------|------|-------|
| 前 回 発 表 予 想 (A) | 6,224 | 265 | 133 |
| 今 回 修 正 予 想 (B) | 5,254 | △26 | △80 |
| 増 減 額 (B-A) | △970 | △291 | △213 |
| 増 減 率 (%) | △15.6 | — | — |
| (ご参考) 前期実績 (平成 18 年 4 月期) | 5,341 | 71 | 13 |

2. 平成 19 年 4 月期 単独業績予想数値の修正 (平成 18 年 5 月 1 日～平成 19 年 4 月 30 日)
(単位: 百万円、%)

| | 売 上 高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|------------------------------|-------|-------|-------|
| 前 回 発 表 予 想 (A) | 5,550 | 260 | 144 |
| 今 回 修 正 予 想 (B) | 4,731 | 47 | △12 |
| 増 減 額 (B-A) | △819 | △213 | △156 |
| 増 減 率 (%) | △14.8 | △81.9 | — |
| (ご参考) 前期実績 (平成 18 年 4 月期) | 4,931 | 126 | 68 |

3. 修正の理由

(1) 連結

当期中半は自動車、半導体、電子部品、家電業界等の設備投資が順調に推移いたしました。後半は自動車関連業界以外では情報化投資が絞られてきておりました。

バーコード関連事業は、第 3 四半期までは売上高が順調に推移しておりましたが、第 4 四半期は情報化投資の減少の影響を受け失速いたしました。依然として価格競争は激しく、前期まであったプリンタの大口案件が減少し、見込んでいたイメージャーの大口案件が翌期にずれ込み、また、米国の子会社は未だ立ち上げ期を脱することができず、という悪材料が重なり、売上高が減少いたしました。

X線事業は、携帯電話などに使われるリチウムイオン電池の検査機の売上高は順調に推移いたしました。しかしその反面、海外での設置・立ち上げであるため、営業担当者が長期に渡って海外の現場に拘束され、X線顕微鏡等の高額製品の営業活動に対する戦力の低下を招きました。半導体、電子部品業界におけるCT検査機能付きのX線顕微鏡等の引き合いは多くありましたが、第4四半期の売上に結びつけることはできませんでした。

その結果、全体の売上高は5,254百万円となる見込みであります。

利益面につきましては、売上総利益率の向上と経費の増加抑制に努めましたが、売上高の落ち込み、債権の見直しに加え、新規連結対象となる子会社が立ち上げ期にあり赤字であったことなどにより、経常損失は26百万円となる見込みであります。また、役員退職慰労金規程廃止による役員退職慰労引当金戻入益を特別利益に、過剰製品在庫の廃棄損を特別損失に計上し、繰延税金資産の見直しを行った結果、当期純損失は80百万円となる見込みであります。

(2) 単独

連結と同様の理由により、売上高、経常利益、当期純利益とも業績予想を下回る見込みであります。

※1 特別損失及び特別利益につきましては、平成19年4月24日に開示しております。

※2 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。

実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

連結決算及び個別決算は、6月下旬に発表する予定であります。

以 上